

消化器検診 Newsletter

No. 99

発行所：日本消化器がん検診学会
関東甲信越支部
〒112-0014 東京都文京区関口 1-19-2
第2 弥助ビル 3 階
TEL / 03-3267-0678
FAX / 03-3235-7647
E-mail:kantou@jsgcs.or.jp

[日本消化器がん検診学会関東甲信越支部機関紙]

「関東甲信越支部（地方会）40 周年を迎えて」

関東甲信越地方会 40 周年によせて

放射線部会顧問
石渡 良徳

昭和 40 年の初期から胃がん検診に携わってきた私の歴史は、関東甲信越地方会（以下、地方会）の歩みに添って進んできた感があります。その歴史を自分史に織り交ぜて書いた著書「医療体制への鼓動」の中から、特に時間を費やして関与してきた「胃がん検診専門技師認定制度」の誕生の概略について、この機会に記念誌に載せて残して頂きたいと投稿させていただきます。

昭和 43 年に全国で 200 万人もの人が胃集団検診を受けているとの書き物を見て、撮影法の載っている書物を探し歩いたがどここの書店でもそのようなものは見たこともないとのことだった。昭和 49 年に 6 枚法の標準撮影法が間接撮影法として標準化されるまでは充満像を主体とした辺縁の変形所見を捕えることが主流で、胃X線診断学もそれぞれの手技で行われ、透視中に診断するとの概念が通常であったのだから無理もない。その後昭和 59 年に 7 枚法が、平成 14 年には新・胃X線撮影法ガイドラインが答申されて 8 枚法として基準化されたことは周知のとおりである。

昭和 54 年に起きた神戸事件での胃がん見落とし訴訟の裁判で「現在の方法では絶対的な信頼はおけない」との判決を下して原告の訴えを棄却した問題は、関係者に大きな関心と反響を与えた。昭和 56 年には「営利を目的にズサンな検査を行っている検診機関を放置しておく、世界的にも評価されているわが国の胃がん検診の質の低下を招きかねない」などこの時代の胃がん検診の精度を指摘する新聞記事の評価に少なからず違和感を抱いていた。

地方会は昭和 58 年 9 月に胃集検精度管理実態調査の膨大な資料をまとめて精度管理指針をつくりあげ、厚生省が打ち出したがん予防対策の答申による老人保健法の精度管理の準拠として採用され、ようやく一定のレベルを担保とした撮影技術が定着しつつあるかのように見えた。

昭和 53 年に白壁彦夫教授の賛意を得て開催した消化管撮影技術研修会を卒業した技師を対象に、「認定胃がん検診専門技師制度」を検討することになった。平成 2 年に窪田博吉医師を委員長に検討委員会を発足させて平成 4 年に市川代表に成案を報告したが、当時の有賀理事長よりの「いち地方会で独走するのは好ましくない」との判断から時の至るのを待つことになった。

平成 9 年に地方会放射線部会の三代目の代表世話人に、翌年の部会委員会で全国の技師代表に推された私は、関東甲信越地方会で成案を得たにも関わらずお蔵入りになってしまった認定技師制度の再検討を土井偉誉委員長に進言し、平成 11 年東京・広島、12 年東京・福岡とで開かれた部会委員会で検討を重ねた結果、本部理事会および総会で承認を得ることができた。それが平成 19 年に施行されたがん対策基本法に組み込まれ「撮影は胃がん検診専門技師に」との表現の一節が目飛び込んできたとき、関係者のこれまでの苦労が報いられた瞬間であった。

しかし、平成 17 年に福岡県の自治体検診のデータを分析して各検診機関の実力を比較したところ、がんの発見率に 4 倍の開きがあったとの報告を見て思い知らされた。これは福岡県に限らず検診に取り組む姿勢そのものの差と捉えられるが、国民の期待を裏切らないためのその是正は一般社団法人に移行したこの世界のどこに委ねればよいのか、課題を残すところである。

目 次

「関東甲信越支部（地方会）40 周年を迎えて」（五十音順）	1
放射線部会	
石渡 良徳	
今井 仁彦	
大槻 清孝	
黒木 幹夫	
斎藤 裕久	
竹野 数馬	
萩原 常夫	
宮城 佳宏	
宮田 和則	
山岸 忠好	
保健衛生部会	
浦島 有希	
日本消化器がん検診学会関東甲信越支部	
第 75 回地方会開催案内	15
第 75 回地方会会長挨拶	16
第 75 回地方会プログラム	17
第 75 回地方会ベストイメージング	18
第 75 回地方会ポスター	19
平成 26 年 8 月 31 日開催代議員会議事録	20
編集後記 石井 崇雄	23

発刊によせて

元関東甲信越地方会事務局
今井 仁彦

「光陰矢のごとし」のたとえがある様に「関東甲信越地方会」が早や 40 周年を迎えることとなった。放射線技師部会が平成 15 年に「30 年の歩みを顧みる」と題して 30 年誌を発刊した。編集委員の一人として参加したのが昨日の様に感じられる。

市川平三郎先生、笹川道三先生と地方会

- ・地方会の発足 1971 年 2 月
- ・保健婦部会の発足 1972 年 6 月
- ・放射線技師部会の発足 1972 年 10 月

(文献笹川道三著：市川平三郎と共に歩んだ関東甲信越地方会誌引用)

- ・超音波技師部会の発足 1999 年

市川先生と笹川先生は、胃集検は「医師、技師、保健婦、事務等に携わる全ての職種のチームワークに在り」と同一テーブルに着き胃集検の精度について議論できる会を発足させた。平成 8 年より丸山雅一（癌研内科部長）に世代交代し"代表世話人代行"となる。癌研に勤務されていた水野タケさんが病院退職後事務員として当地方会に平成 11 年 4 月から勤務していた。事務所が大塚（癌研の近く）に在った時、世話人会等会議の準備に関係した為途中から事務局を担当することとなった。その後茅場町早胃検近くの高橋ビルに移転した。高橋ビルは早胃検がビル一棟を借り、4 階の一室を地方会に貸し事務局とした。丸山先生が早胃検に癌研より赴任されており、3 階に市川先生と同部屋に入室しておりました。地方会代表丸山雅一となったのもこの時でした。

機関誌「胃集検通信」

創刊：昭和 57 年 7 月 20 日。

地方会代表市川先生の「視点」が年 4 回掲載され始められた。第 38 号・平成 7 年 12 月 25 日号を以て「視点」執筆も実務も丸山代行に移行した。胃集検通信も消化器検診 Newsletter と題名変更とカラー刷りとし内容も充実させる様努力をしました。また会の態勢を整え

企画調整委員長 笹川 道三 先生

編集委員長 林 学 先生

監査 細井 董三 先生

Newsletter 発行は年 3 回とし、地方会学会は年 2 回（春秋）を年 1 回秋とし、総会にて了解を得、行事変更となりました。その後、種々問題があり企画調整委員会にて会計業務、役員定年を話し合い会計にプロをお願いし、役員は 65 才でと丸山代表より話しがありましたがそのままになっています。

企画調整委員長 林 学 先生

編集委員長 今井 貴子 先生

会計 熊谷会計事務所 結城 氏

監査 細井 董三先生

と交代し、事務局の充実を計りました。残念なことに、丸山先生から電話「今病院の帰り、入院することになった」と切れた。急いで事務所 3 階に行ったら市川先生が御出になり「今電話有ったよ、今日は休み」との事。その後は丸山代表の体調に合わせ、その後を乗り切ることとし市川先生が診察日に水野さんと連絡をとり 3 階に行き談笑し会の運営を計りました。

丸山代表（60 才入院…66 才没）

代表 馬場 保昌 先生 → 林 学 先生

企画調整委員長 石川 勉 先生

編集委員長 今井 貴子 先生

監査 細井 董三先生

事務局移転：地方会は消滅し支部に変更のため。40 年の歴史をここに幕とし新しい組織の発展を望みます。

消化管造影技術研修会の思い出

放射線部会
顧問
大槻 清孝

昭和 53 年に第 1 回の消化管撮影技術研修会が白壁先生らの発言により、委員長には当時の癌研究会付属病院の淵上在弥先生が就任され、診療放射線技師の造影技術の指導や解剖学的基礎的知識の教授をされました。

当時実行委員長には木村行俊放射線部会世話人が当たられ、その業務の遂行に従事された。当時の事務局長萩原理氏がこの研修会にその能力を十分発揮され、実行と運営に当たられました。この研修会が如何にあるべきか等の検討するために、当時の斉藤祐久放射線部会代表世話人や木村（行）、海老根、鶴田、萩原（明）、佐藤（忠）、村西氏そして小生が委員となり、そこで出来上がったのが「胃集団検診における胃X線撮影を担当する放射線技師を対象とした専門教育研修のあり方について」であり、これも現在の研修会の基本的カリキュラムとなっているものです。

小生は第 3 回の研修会から関与することになり、準公的機関を会場として利用して、研修生の負担の軽減を図るための体制を検討し、代々木オリンピック教育センターを活用することになり、快諾を得て開催することになり、80 名の研修生を受け入れて終了しました。ところが研修生のアンケートや実行委員の反省会において、非常に悪評でありました。それは午前 9 時から午後 9 時までの研修活動において、環境が寒々とした部屋であり、何の設備もなくまるで別世界に行った様な風情であり、研修委員や実行委員の不評も加えて、第 4 回の研修会より改善を図る必要性を痛感したことでした。

そこで第 4 回開催場所は世話人会で種々検討し、箱根のホテルや千葉厚生年金休暇センターなどが対象となり、最終的には淵上研修委員長の意見により、種々紆余曲折もあったが、準公的機関である千葉厚生年金休暇センターに決定した。これから約 20 年間わたりこのセンターを活用して研修会を実施した。

この時点では萩原事務局長より、経費について、この課程では 1 日につき 2.5 万円が必要であると言われ、赤字になるとのことでした。そこで第 5 回から小生が会計を担当させられ、運営を実施し赤字の脱却を経験して、当時の国立がんセンターの笹川道三先生より良くやったねとの言葉をいただくことが記憶に残っています。

第 10 回の研修会は白壁彦夫順天堂大学名誉教授による記念特別講演もいただき感激しました。研修委員長も初代の淵上先生、木村行俊、斉藤祐久、石渡良徳、そして小生と経過し、第 23 回の研修会よりバリウムと空気などによる造影であることより具体的内容を包括した「消化管造影技術研修会」と名称変更し、その充実を図り内容についても、被検診者の立場を重視した画像を完成させるため「画像の読影技術向上」そして「医療事故の救急対策」なども含めて研修を実施するようになり、「奉仕の心」と「技術の高揚」を各診療放射線技師が、自己研鑽に努力することを念願することになりました。

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 40 周年記念誌発刊によせて — 関東甲信越地方会と私 —

(公財) 東京都予防医学協会 放射線部

黒木 幹夫

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 40 周年の記念誌発刊心よりお慶び申し上げますとともに、創設より関東甲信越地方会をここまで大きな会へと発展されてこられた諸先輩方の献身的なご尽力を強く感じております。

私と日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会（以下：関東甲信越地方会）との関わりは・・・1997 年（H9）に受講生として参加した「第 20 回 消化管撮影技術研修会」千葉県での 3 泊 4 日の缶詰合宿が始まりでした。いま思えば 4 日間ぶっ通しの研修会はとても辛かったですが、良い思い出となっています。

2000 年（H12）には、関東甲信越地方会の正式な会員となり、その年に発刊された「最新胃 X 線検査技術 - 基礎と実際 -」（金原出版）は、上部消化管検診に携わる技師であれば誰でも知っている撮影方法はもちろんのこと、装置、造影剤、基本的な読影、病理、解剖、検診の効果に至る広い分野が解りやすくまとめてあり、日々の上部消化管撮影業務の教科書としておりました。

2001 年（H13.8）日本消化器がん検診学会主催により、放射線技師の技術の質を向上させ胃がん検診の精度を上げることを目的とした「第 1 回 胃がん検診専門技師認定」試験が開催され認定を取得いたしました。

2007 年（H19）より関東甲信越地方会の世話人に任命され、本年度で 3 期目、2008 年（H20）より日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会の有志による「消化管造影技術研修会」（旧：消化管撮影技術研修会）の世話人、講師を勤めさせていただいております。

2009 年（H21）消化器検診 Newsletter 内のリレー随筆〈放射線部会〉に「基本が大切」を投稿させていただきました。

最近私は、ボルダリング（Bouldering）という 2 ～ 4m の岩や石を確保（命綱）無しで登るスポーツを始めました。これは、途中墜落しないよう体や手足の置き場、手足にかける体重のバランスを考え、次のフォールド先を選びながら登っていく集中力と頭脳を必要とするフリークライミングの一種です。技師歴 16 年の私は関東甲信越地方会 40 年の歴史の半分にも達していません。ボルダリングの岩に例えると、諸先輩技師が築きあげた偉大な岩（消化器がん検診の歴史、功績、検査技術）をまだ登り始めたばかりです。今後も先輩技師・先輩世話人の教えを良く学び、考え関東甲信越地方会という岩を、一步一步集中して登り若き次世代へと伝えていくのが私の世話人としての使命と考えております。

最後に、法人移行にともない平成 25 年 4 月より「関東甲信越地方会」は「関東甲信越支部」へと名称変更が決定しております。現在、関東甲信越地方会世話人の立場として、今後とも会員の皆様お一人お一人の温かいご理解とご協力をお願い申しあげ、より一層の発展を祈念申しあげます。また、「日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 40 周年記念誌」発刊にあたり、このような機会を与えて下さいました編集委員長の長浜先生に深く御礼申しあげます。

創立 40 周年に寄せて… “放射線技師部会” のころ

第 2 代代表世話人

斎藤 裕久

「技師部会」と現「日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会放射線部会」を呼んでしまう。地方会発足 1 年 8 ヶ月後昭和 47 年 10 月 21 日技師部会発会式を迎えた。同じころ保健婦部会も発足している。“胃集検は医師だけで成果が上がるものではなく、放射線技師、看護婦／保健婦およびその協力者などの総力に掛かっている”が根底に流れている。私は昭和 50 年 11 月～平成 9 年 1 月の間代表世話人として在任し、期間は 21 年余となる。

技師部会の主な事業は、全国胃集検合同研究会、胃集検放射線装置等実態調査、消化管撮影技術研修会、全国胃集検放射線技師連絡会（全胃放連と略す。現日本消化管画像診断情報研究会）、胃がん検診専門技師制度などであった。

全国胃集検合同研究会は、昭和 50 年 5 月市川平三郎先生が第 14 回日本胃集団検診学会総会会長を担当された際に発足した。名称の由来は“多職種が同じテーブルにつく”である。

胃集検放射線装置等実態調査は、検診車や X 線装置・使用機材、撮影法や撮影環境の実態把握が目的となっている。第 1 回全国調査は昭和 61 年 3 月に実施された。以後、5 年間隔で実施されており、報告書から胃集検放射線技術の精度管理の変遷を詳細に読み取ることができる。この時期すでに全胃放連の発足準備会が持たれており、この実態調査はその準備会の仕事でもあった。

昭和 59 年地方会精度管理研究班から「精度管理指針」が答申された。その中に実施機関や検診装置の精度管理手法が示されており、のちに国の実施要綱に採用された。医師に対する認定制度が施行されていたこともあり、精度管理項目のうち残された部分は放射線技師の撮影技術のみとなった。

消化管撮影研修会は、第 15 回地方会会長を担当された白壁彦夫先生の強い賛意が後押しとなって実現した。地方会主催とはいえ参加者は全国から集まり、定着した研修会となっている。

胃がん検診専門技師制度の必要性は技師部会発足当初から議論されてきた。平成 3 年 1 月実施大綱（案）が地方会へ上申され、同年 2 月胃がん検診専門技師認定制度検討委員会が発足した。委員会は頻回に会合をもち短期間のうちに成案をまとめ、地方会機関誌に公表された。この提案は多方面に波紋を投げかけ、日本消化器集団検診学会からは“待った”がかかった。以後 10 年の歳月が経過し平成 13 年ようやく実現の運びとなった。

最後に、地方会・技師部会・保健婦部会ははじめ上に述べた関連事業の影の功労者は、萩原事務局局長であったことを明記しておかなければなるまい。キリスト教信者であった氏に敬意を表し西暦で記す。萩原理氏 2000 年 7 月 31 日午前 2 時 34 分永眠さる。合掌。

（'12.12.11）

技師部会世話人を終えて

竹野 数馬

胃集検の胃癌発見率が 0.1%、その内進行癌が 70%、早期癌が 30%であったそんな時代の昭和 51 年に山梨県保健衛生協会に就職しました。そんな 31 歳の春は、集団検診なるもの、何も知らない青年でした。数年勤めれば県職員になれるという希望だけで、早朝からの勤務に耐え、先輩技師の教えの通り、暗室透視内で半日 60 ～ 70 人程の撮影を行っていました。

当時は 5 枚撮影で黒いマーゲンの陰影が見えればスイッチを押して撮影をするという単純な作業でした。それから数年経ち、県への移動も立ち消え、気が付いた時にはずっぱり胃集検の世界に入り込んでいました。職場からの出張命令で学会・研修会には必ず出席し、技師会・世話人会へも参加させてもらい、毎月東京の会場へ出席しました。そんな後押しもあり、胃集検を一生の仕事としていこうと決心したものでした。

それよりも大きな要因があります。以前から県内の胃集検を指導して下さった戸塚先生の存在がありました。胃集検に関する技師の勉強会を毎週開催して、撮影・読影技術をご教授して頂いたのです。そうこうしているうちに県内胃集検の集計などを学会発表するようになり、各地を飛び回りました。

特に忘れられないのが前壁撮影の草分けの頃、逆傾斜が 15°しか出来ない透視台の時代のことで、何とか広範囲な胃前壁面を描出しようと逆傾斜を 15°して右腰を上げ、更に台から骨盤を浮かせて撮影することを考案し、良好な成績を上げたので学会発表をしました。その後すぐに前壁撮影が追加された 7 枚撮影の指針が出されたのでした。その後も集計成績は勿論、胃集検での癌発見の極意とか、色々な発表を試みました。そして数年が経ち、胃癌発見率も全国平均の 0.15%、更に早期癌と進行癌発見の逆転現象が起きたのです。技師全員の努力が報われた時でした。

そんな頃の事です。私は不思議な体験をしました。透視中、モニター画面を見ていると、胃の中に自分自身が入って、胃角部を見上げているという錯覚に陥っている自分がいたのです。胃角部大弯内部に立って、噴門部、胃角上部、幽門部を見上げ、壁の形状、襞の流れ、凹凸を観察しているのです。体位毎に立ち位置が変わっていくのでした。きっと、映画『ミクロの決死圏』さながらメルヘンの世界に迷い込んだのかもしれないね。

今まで 30 年余り、多くの世話人の皆様にご指導、ご鞭撻を頂き、ここまでやってこれました事に心より感謝申し上げると共に、最後に日頃思っていることを申します。胃集検を続けるにあたり大切な事が 3 つあります。『情熱』『努力』『感謝』です。胃集検に限らず、物事に情熱を注ぐことです。そして、目的に向かって努力します。それから、受診者、検診スタッフに感謝の気持ちを表す事です。

山梨県健康管理事業団に 30 年勤めて無事退職しましたが、今でも声がかかれば撮影に出掛けています。胃集検が好きでたまりません。今日こそは、もっと良い写真を撮ってやろうと日々奔走している今日この頃、只今 67 歳、何歳までできるか楽しみです。

関東甲信越地方会の思い出

萩原 常夫

60 年代の最後の年に胃 X 線検査に参入した何年後だったか、施設会員の一人として初めて地方会に参加し、白壁、市川、熊倉、山田などのビッグネームの「実物」を見た。少年時代の思い出ならスクリーンの吉永小百合か、今の少年には握手会の AKB か、教科書の中で燦然と輝き、そのころ既に神話と信じたビッグネームが目の前にいるのは、それだけで十分なインパクトだった。教科書の中にしかない超絶技巧だと思っていた「理想的な二重造影」が目の前にある、例えばそんな感動であったろう。

すぐに個人会員になり、5 年経って、10 年が過ぎ、やがて 40 年を超えた。その時間の中で、斯界として築き上げた実績の宝の山が他にもあることは解ったが、初めての地方会で得た感動が 40 年の支えになったことは間違いがない。技師の世界の大先輩も含め、いつの間にか面識を得、言葉を交わして学んだこと、教科書にはない「実物と会う」という数多の経験は、関東甲信越地方会という枠の密度の高さだろう。いくつか職場を変ったが地方会の枠内で、学術集会にはほとんど参加した。山間に在住のハンディはあったが近距離で、自費になる場合も参加しやすかった。

が、ルーチン検査の多くを技師が担い始めた 80 年代初め、甚だ極端な言説を聞いた。

「写真だけ撮って責任は全部診断医任せなんだから、技師は気楽でいいよね」

84 年の神戸裁判の判決に接したある技師の感想は論外だったが、虚を突かれた思いもあった。技師は自分の検査にどこまで責任を負えるのか、診断医に怒られるだけが責任の取り方、のような気持は無かったろうか。

神戸裁判の事例発生の年に、地方会主催の技師研修会が千葉で始まっている。ビッグネームが多く在籍した関東甲信越にいた幸運を喜ばずにはいられない。その第一回に参加したが、水準は極めて高く、単なる「地方会」の枠を超えた内容だった。それが証拠には、地方会開催にも関わらず聴講生は全国から集まった。初回からそうだった。技師自身、ちゃんと勉強する機会を探していたのだ。

神戸裁判の大騒ぎはそんな時代に起こり、当時の勤務先の病院グループでは翌年、医師と技師の読影力が調査された。軽井沢町で行われた放射線技師部会（当時の呼称）では、技師に高度な研修を促す「軽井沢アピール」が採択された。中心に関東甲信越地方会があり、後の認定技師制度につながってくる。

そんな名前が消えるのはもちろん寂しい。が、既に自分自身が「隠居」の身である。時代の流れに逆らえない自分が空しい。

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 40 周年を記念して

がん研有明病院
宮城 佳宏

私は、この会に若き日より入会しておりますが、胃がん検診は、その間に少しずつ変わってきました。しかし、その目標「救命可能な胃がんの早期発見」は変わりありません。私は、今まで一会員として先輩方に御指導頂いておりましたが、数年前よりは、放射線部会の世話人とし皆様方の勉強の場を提供する立場となりました。

関東甲信越地方会放射線部会では、平成 20 年度よりレベルアップ・セミナー（以下レベ・セミと表記）を定期的に開催しています。今年度は年 6 回を予定しており、11 月開催で通算 21 回目となりました。

レベ・セミは技師・医師の講義と症例検討会が主な内容です。技師の講義は、基準撮影法を中心とした撮影に関する詳細説明と技師読影などで、ビデオ映像を交え大変分かりやすい講義となっています。医師の講義では、多くの症例を用い医学的な基礎内容を分かりやすく解説して頂いています。症例検討会は、初級者の方も積極的に意見を言える場（グループ検討）を設けるグループリーディング方式で 2～3 症例の検討を行っています。このレベ・セミは東京会場を中心に関東甲信越各県で開催しています。広報はホームページ、メール、メーカーさんによるチラシ配布が中心ですが、毎回、多数の申し込みがあります。最近では若い技師さんの積極的な参加が目立ちます。

このような勉強会に多くの技師さんが参加する理由としては、やはり「より良い画像を撮影したい」という熱い気持ちがあるからだと思います。良い画像とは診断価値の高い画像です。診断価値の高い画像を撮影する為には、撮影法の熟知が必要ですし、読影能力も必要です。それを知っている多くの技師さんが、撮影法、読影を勉強する場である勉強会に参加することで、診断価値の高い画像を撮影できるように努力しているからです。

この事により少しでも良い画像を撮影することができれば、それは、国民の期待に応えることに繋がるのではないのでしょうか。これからもレベ・セミ等の勉強会を利用し、消化管に携わる技師としての能力の向上をはかってください。今年度よりは、更に読影に特化した X 線画像読影勉強会を年 4 回開催しております。来年度より名前は変わりますが、関東甲信越地方会放射線部会は、更に充実した勉強会を開催してまいりますので、一緒にがんばっていきましょう。勉強にはこれで終わりということはありません。エンドレスです。

関東甲信越地方会祝 40 周年そして未来へ

放射線部会
副代表世話人
宮田 和則

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会設立 40 周年を迎えるにあたり心よりお祝いを申し上げます。設立から 40 年に渡る歴史を作っていただいた市川平三郎先生をはじめとする我々の先人達の熱意と努力に敬意を表すると共に感謝申し上げます。現在、我々が行っている胃 X 線造影検査は当時から現場ごとに様々な問題を抱えており、その地域ごとに対応しておりました。そんな問題を解消するため、検査に携わる医師、保健師、放射線技師が「胃がん撲滅」という共通の目的を持ち、話し合うことで放射線技師としての資質と技術、精度の向上に努めてきた地方会の成果として、現在の検診環境が作られてきたと思います。

私は平成 8 年に当会に入会し、平成 12 年度より放射線部会世話人として活動してまいりました。当時は故丸山雅一先生が関東甲信越代表世話人として地方会を牽引しておられました。丸山先生には沢山のご指導とアドバイスいただきました。先生から関東甲信越の胃がん検診に携わる放射線技師の現状について尋ねられ、技師数、受診者数、装置数を半年程かけて調べ、学会で報告させていただきました。放射線部会では認定技師制度の開始に向け、当時の石渡代表世話人、海老根世話人らが熱く議論し地方会、本学会との調整等を行っておられました。

平成 13 年には我々技師の悲願であった「胃 X 線検診専門技師認定制度」が開始されました。日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会は医師、放射線技師、臨床検査技師、保健師・看護師が一体となった素晴らしい会でありました。

平成 25 年度からは公益社財団法人 日本消化器がん検診学会関東甲信越支部として新たにスタートします。取り巻く環境は年々厳しくなっておりますが、これからも消化器 X 線造影検査が果たさなければならない使命は大きく、国民の公衆衛生に寄与するために何ができるかを考え、今後は全国 7 支部で総力を結集して行きたいと思います。

創立・40 年を振り返って

(社) 日本健康倶楽部千葉支部

顧問

山岸 忠好

この度、本会消化器 News Letter 編集委員長の長浜隆司先生から本会の法人資格が特例社団法人から一般社団法人への移行と創立 40 年を期に記念誌を発刊するに当たり原稿依頼の書面を戴きました。同慶の至りながら現在も年間 1/3 現役の立場から 40 年を簡単に随想したいと思います。

私が本会に入会したのは創立から 2 年目の昭和 48 年ですが我が書棚には発行以来の機関紙（創刊号紛失）当初の胃集検通信から現在の消化器 Newsletter まであります。

機関紙の発行は地方会が発足して 10 年後ぐらいからでしたが、ご存知ない会員もいらっしゃると思いますので昔の機関紙をスキャンしてみました。



左側が精度管理の実施が叫ばれ始めた昭和 57 年 11 月に発行された胃集検通信の第 2 号です。特に記して、初代世話人代表の市川平三郎先生の連載記事【視点】が好評を博しました。

下欄は現在の Newsletter で平成 15 年に発行された第 65 号です。



季刊発行で胃集検通信の 55 号が平成 8 年の春で終了し夏に Newsletter の 56 号に生まれ変わっています。

一都九県持ち回りの地方会学術集会も当初は年 2 回、春、秋の金曜日の午後からの開催でしたが途中から年 1 回の秋の土曜日に一日開催に変わりました。

たまの大雪で研究発表時間に遅れの懸念をしながら出席したことや別の発表では午後 2 席目だから昼食にビールを一杯飲んで発表は原稿発表だから寧ろ流暢弁舌になるからいいだろうと決め込んで出席したこと等、今日でみれば懐かしいページが蘇ってきます。

本学術集会の開催も 24 年の秋で第 72 回を数え小生も第 70 回を開催させて頂きましたが、ご参加いただいた多数のジュニアの皆さんからは大きなエネルギーを戴きました。

会員数も平成 12 年では 700 名でしたが 15 年では 1100 名、19 年では 1500 名と漸次的に増え現在では倍以上の 1800 名と伺っております。

この盛大な発展を遂げてこれたのもひとえに市川先生に次ぐ歴代の世話人代表の丸山雅一先生（故）、林 學先生はじめ歴代の編集委員長、編集委員の先生方、本会事務職また一時期、無償ボランティアで事務処理を切り廻した皆さんの労があったればこそです。

ここに、絶大なる感謝と本支部の益々の発展を祈念して 40 周年記念誌の稿とします。

「日本消化器がん検診学会甲信越地方会 40 周年記念誌」発刊にむけて

横浜市立市民病院 がん検診センター

浦島 有希

この度は日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会が設立 40 周年を迎えましたことを心よりお祝い申し上げます。また、40 年の永きに渡り、地方会を支えてこられた役員の皆様をはじめ、会員の皆様に敬意を表すとともに深く感謝申し上げます。

私と地方会の出会いは今から 14 年前になりますが、それまでは、横浜市に入職後、消化器外科と脳外科の混合病棟で看護師として勤務していました。当時はがん検診センターでがん検診を受け、がんが発見された方が治療として手術を受けるために入院、その患者さんに看護を提供するという立場でしたが、今になって振り返ってみると、あまりにもがん検診には無知だったと思います。ただ、どの患者さんも、がん検診を受けたおかげでがんが早く見つかり本当によかった、と言っておられたのは、今でも印象に残っています。

その後、がん検診センターへの配転が決まり、保健師として気持ちを新たに、がん検診に携わるようになりました。がん検診では当たり前のようによく使われる間接撮影・直接撮影の違いが分からないことから始まり、検診で使われる用語など、一から覚えることが多く、知らない世界に舞い込んできたような感覚で戸惑いました。

そのような折、やっと業務にも慣れたころに、元保健衛生部会世話人代表である先輩保健師から、当地方会のことを紹介して頂きました。今後、がん検診に携わっていく上での、最新知識や、他の検診機関等の情報が入手できるとのお話もあり、入会させて頂きました。

初めて参加した地方会では、医師、放射線技師、保健師の方々が活発に意見を交換しており、とても刺激的だったことをはっきり記憶しています。その後も機会があれば、年 1 回の地方会に参加させていただき、現在に至っております。ここ数年は、保健衛生部会メンバーとして、学会のプログラム委員を拝命したり、常任世話人としての重責を担ったり、と若輩ながら地方会の一員として参加させていただいています。皆様方ががん検診に対する熱意やたゆまない努力をされている姿に触れるにつれて身が引き締まる思いと自己研鑽の必要性を感じています。

今年度は保健衛生部会が温めてきた胃 X 線検診が、検診者にとってより安全に受診できるよう医療従事者向けの冊子の発刊を目指し、胃 X 線検診安全基準委員会が立ち上がりました。私もそのメンバーとして参加し、各委員のご協力を頂き、内容の検討に奮闘しております。本冊子が皆様にとってお役に立てれば幸いです。

今後も消化器がん検診学会関東甲信越支部の発展のため、会員の皆様方と力を合わせてまいりたいと考えておりますので、ご指導とご鞭撻のほどをお願いいたします。

最後に、本支部と皆様の一層のご活躍・ご健勝を心よりお祈りし、日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会設立 40 周のお祝いの言葉とさせていただきます。

第 75 回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会 開催のご案内

会 期：平成 27 年 8 月 29 日（土）

会 場：アピオ甲府（セレス甲府）

山梨県中巨摩郡昭和町西条 3600

会 長：依田 芳起

山梨県厚生連健康管理センター 所長

問い合わせ先：

第 75 回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会事務局

〒 400-0035

山梨県甲府市飯田 1 丁目 1-26

連絡先（電話）055-223-3635

山梨県厚生連健康管理センター 医事課（宮崎）

ホームページ 準備中

消化管の診断に

処方せん医薬品

X線造影剤〈硫酸バリウム製剤〉

◇パウダー製剤

硫酸バリウム散 99.1%「共成」	バリトップHD
ネオバルギンEHD	バリブライトP
ネオバルギンUHD	バリブライトCL
ネオバルギンHD	バリコンクMX
	バリブライトLV

◇ゾル製剤

バムスターS200	バリトップゾル150
バリトップ120	バリブライトゾル180

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

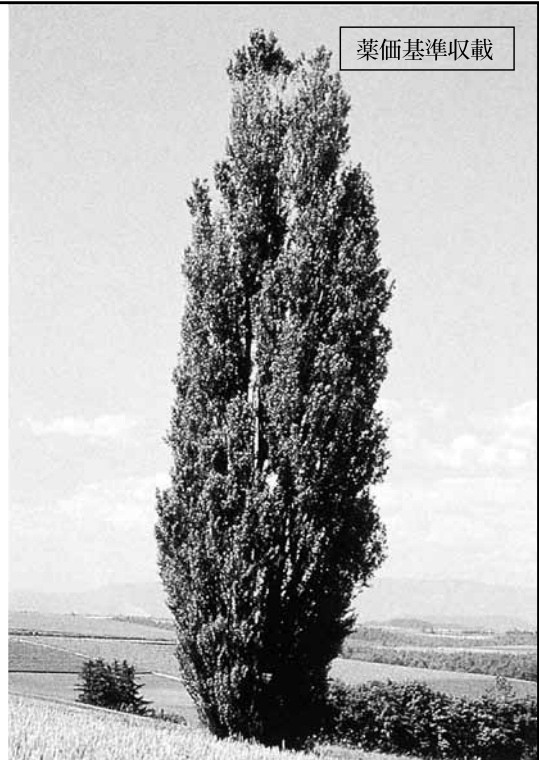
※注意—医師等の処方せんにより使用すること

発売元 **KAIGEN** カイゲンファーマ株式会社

大阪市中央区道修町二丁目5番14号〔資料請求先 商品企画部〕
<http://www.kaigen-pharma.co.jp>

※平成25年4月より株式会社カイゲンは
カイゲンファーマ株式会社に社名変更
いたしました。

薬価基準収載



第 75 回 日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会開催にあたって

会長 依田 芳起
(山梨県厚生連健康管理センター 所長)



テーマ：消化器がん検診の精度向上を目指して

この度、第 75 回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会の会長を拝命し甲府の地でお世話させていただくことになりました。本会は平成 27 年 8 月 29 日（土）にアピオ甲府（セレス甲府）にて開催いたします。伝統ある学会をお世話させていただくことになり大変光栄に思います。

今回のテーマは『消化器がん検診の精度向上を目指して』とさせていただきました。放射線、超音波、保健の各部会それぞれが尽力され、関東甲信越支部は日本消化器がん検診の牽引役を努めてまいりました。さらに新しい検査法、実施基準、判定基準、事後指導区分、安全基準など、学会内にとどまらず他の学会における共通の基準として認めていただいた経緯もあり、検診の意義がひろく裏付けられるとともに、検診の精度管理も全国共通に共有できる土台が出来つつある時期にあります。各部でこれら精度向上に向けた取り組みを検証し、今後の方向性を確かなものにする会になれば幸いです。

山梨は関東甲信越支部 10 都道府県で人口、会員数ともに最小県であり、至らぬ点が多々あるかと思いますが、来県していただいた会員・関係者のみなさまには有意義な会であったと心に残る運営をプログラム委員・運営委員共々心がけるつもりです。多くの会員の皆様のご支援とご参加をお願い申し上げます。

第 75 回日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部地方会プログラムのご案内

- 会 長 依田 芳起
山梨県厚生連健康管理センター 所長
- 会 期 2015 年 8 月 29 日 (土)
- 会 場 アピオ甲府 (セレス甲府)
山梨県中巨摩郡昭和町西条 3600
甲府昭和インター隣
- 参加費 3,000 円
- 送 迎 甲府駅よりマイクロバスにて送迎
(セレス甲府まで 15 分)



第 1 会場

- ・一般講演
- ・講演 胃 X 線検診の読影基準
- ・ランチョンセミナー ピロリ菌関連
- ・特別講演① 内視鏡とピロリ菌診断
- ・特別講演② 胃 X 線とピロリ菌診断
- ・イブニングセミナー CTC の現在と未来

第 2 会場

- ・一般演題
- ・ザ・ベストイメージングコンテスト
- ・パネルディスカッション 腹部超音波カテゴリー分類について
- ・教育講演 膵臓の超音波

第 3 会場

- ・グループワーク 保健衛生部会 胃 X 線検査検診安全基準について
- ・症例検討会 放射線部会

お問い合わせ先
事務局

〒400-0035 山梨県甲府市飯田 1 丁目 1-26
山梨県厚生連健康管理センター医事課
TEL. 055-223-3635 / FAX. 055-237-5889

ザ・ベストイメージングコンテスト (The Best Imaging Contest) 作品募集

第 75 回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会（第 17 回超音波部会学術集会）において「第 8 回ザ・ベストイメージングコンテスト」を開催いたします。

記録された超音波写真には検査担当者の思いが込められています。日常業務で撮影された自慢のベストショットを応募してください。応募していただいた超音波写真を、応募者・所属施設を伏せて会場においてスライドショーで閲覧し、会場参加者の投票でベストイメージングを選出します。優秀賞には粗品を進呈いたします。

応募資格は医師・技師を問いません。また応募者のプレゼンテーションはありませんので、学術集会に参加できない方でも応募して頂いて結構です。

特に、出張検診で活躍されている方々の汎用機で撮影された症例のご応募お待ちしております。

第 75 回関東甲信越支部学術集会（第 17 回超音波研修委員会学術集会）

会 期：平成 27 年 8 月 29 日（土）

会 場：山梨県中巨摩郡昭和町西条 3600 アピオ甲府〈セレス甲府〉

大会長：依田 芳起（山梨県厚生連健康管理センター 所長）

応募要項

【超音波画像】

B モード（カラードプラ・パワードプラ可）1 枚（ただし 2 分割使用可）

超音波画像に文字、記号等はいれないで下さい。

【領域】

上腹部（肝臓、胆道、膵臓、脾臓、腎臓、消化管、腹部大動脈、その他）

【応募方法】

E-mail で件名を『ベストイメージング（応募者名）』とし、氏名・連絡先住所を明記の上、添付ファイル（power point）で応募して下さい。

〈スライド 1 枚目〉

氏名、所属施設名、超音波機種名、周波数、患者（検診者）の年代・性別診断名、コメント（術者の一言）

〈スライド 2 枚目〉超音波画像

【応募先】

E-mail 準備中

***応募は一人 1 点のみとさせていただきます。**

第75回

日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部地方会

「消化器がん検診の精度向上を目指して」

● 会 期 2015年 8月29日 土

● 会 場 アピオ甲府 (セレス甲府)

〒409-3866 山梨県中巨摩郡昭和町西条3600

TEL: 055-222-1111 HP: <http://celes-kofu.com/>

● 会 長 依田芳起 (山梨県厚生連健康管理センター所長)

● 参加費 3,000円

一般社団法人

主 催 日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部

大会事務局

〒400-0035 山梨県甲府市飯田1丁目1-26

山梨県厚生連健康管理センター 医事課

TEL.055-223-3635/FAX.055-237-5889

平成 26 年度 第 1 回 日本消化器がん検診学会関東甲信越支部 代議員会 議事録

日 時：平成 26 年 8 月 31 日（金） 午後 12 時 00 分～13 時 00 分

場 所：茨城県医師会 4 階会議室

出席者数：出席 32 名、委任状による出席 35 名、合計 67 名

（現在数 80 名の過半数以上）

- 議 題
1. 平成 25 年度決算報告
 2. 平成 26 年度予算報告
 3. 平成 26 年度支部運営報告
 4. 各事業会計報告（4～6 月分）
 5. 第 75 回地方会（平成 27 年度・山梨）開催について
 6. 第 76 回地方会（平成 28 年度・新潟）開催について
 7. 各研修委員会の活動について
 8. ニュースレター活動について
 9. 平成 26 年度関東甲信越支部会計マニュアルについて
 10. その他検討事項

日本消化器がん検診学会関東甲信越支部 石川勉支部長より定足数が満たされていることを確認し、石川支部長が議長となり開会を宣した。

続いて、議事録署名人に、齋藤洋子委員、山口和也委員を指名のうえ、審議に入った。

1. 平成 25 年度決算報告について

水石事務員より 平成 25 年度決算報告として収入及び支出について報告がされた。

2. 平成 26 年度予算報告について

石川支部長より 26 年度予算は本部提出し承認されているが、3 月代議員会で変更承認された点について、保健衛生研修委員会「印刷製本費」具体的には胃 X 線検診安全基準冊子の予算を 130 万円から 50 万円減額し 80 万円と了承され、また謝金については理事長承認の上ホームページで中止を会告し

4 月 1 日より当学会員に対する謝金は中止しているとの報告がされた。

3. 平成 26 年度支部運営報告について

石川支部長より、各事業を除く支部運営費用 1 年間の概算報告、続いて平成 26 年 8 月から 27 年 3 月までの各事業を除く支部運営費用概算、平成 26 年度末の予想残高が報告され、今年度以降の財政状況はさらに厳しくなるとの報告がされた。また、各事業についてはこれ以上の赤字がでない運営をしていかなければならないとの事。

関本代議員より、赤字になっているが会費をどのように使われているのかとの質問が出され、石川支部長より、会員への補助金は正会員で千円、A,B 会員は五百円である。次期支部長会で本部に A,B 会員の開催する研修会・セミナーへの補助金をお願いするとの事。

4. 各事業会計報告について

石川支部長より、平成 26 年 4 月から 6 月までの放射線研修委員会、超音波研修委員会の事業会計は -613,638 円、さらに、既に経費が発生している事業として、平成 27 年 3 月開催新潟セミナー(超音波)と平成 27 年 3 月開催学術集会(放射線)で合計 112,579 円発生しているとの報告がされた。

5. 第 75 回地方会（平成 27 年度・山梨）開催について

第 75 回地方会 会長 依田芳起先生より挨拶があり、続いて第 75 回地方会開催について開催日は平成 27 年 8 月 29 日土曜日、甲府にて開催、テーマは「消化器がん検診の精度向上を目指して」との報告がされた。

6. 第 76 回地方会（平成 28 年度・新潟）開催について

第 76 回地方会は宮田 和則委員より、がんセンターの先生に依頼済との報告がされた。

7. 各研修委員会の活動について

放射線研修委員会

宮田 和則代表より今年度から初級者向けセミナーを 2 回を行った。通常のセミナーとして 7 月に長野にて開催、9 月に新潟で開催予定。昨年度まで読影勉強会としていたものを、認定技師講習会とし年 4 回予定しており、第 1 回目は終了、今後の 3 回は執行部で収支を含めて検討する予定。造影研修会は 1 月末、学術集会を 3 月に開催予定。収支がマイナスとならないよう今後検討していくとの報告がされた。

超音波研修委員会

鳥海 修事務局長より、今年度はセミナーを 2 回開催済、1 回目のセミナーで世話人会を併催、7 月以降について千葉と長野で 1 回ずつ開催、来年 2 月に実技講習会、3 月に新潟セミナーを開催予定。今後は赤字の出ない運営を検討していきたいとの報告がされた。

石川支部長より

謝金を約束している分については、支払っているが、いつまで約束しているのか？と質問があり、鳥海事務局長より、県単位のものについては一任しているので確認できてないが、おそらくないと思うとの事。改めて謝金については 4 月 1 日より中止となっている旨、周知してほしいとの事。

保健衛生研修委員会

小川代表より、胃 X 線検診安全基準冊子改訂にむけて、Q&A を中心に内容を深める予定との報告があった。

8. ニュースレター活動について

山口 和也編集委員長より、編集委員長就任の挨拶があり、続いてニュースレター97号の6月発行済今年度は10月、2月発行予定。また40周年記念原稿があるので3回～4回に分けて掲載予定と報告がされた。また、議事録のニュースレターへの掲載、ニュースレターのホームページ上で公開予定の提案がなされ承認された。発行部数は500部まで減らすことを検討中。編集委員を放射線技師、超音波技師から1名ずつ追加した旨、報告がされた。

9. 平成 26 年度関東甲信越支部会計マニュアルについて

水石事務員より、会計マニュアルについて変更点の報告がされ承認された。

10. その他検討事項

石川支部長より、先の幹事会にて次期支部長に入口 陽介先生を推薦したいとの報告がされ、代議員会において決議の提案がなされ、満場一致で承認された。

以上をもって、予定の議事を終了し、平成 26 年度第 1 回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部代議員会を閉会した。

平成 26 年 8 月 31 日

平成 26 年度 第 1 回 日本消化器がん検診学会
関東甲信越支部 代議員会

議長

石川 勉 ㊞

議事録署名人

齋藤 洋子 ㊞

議事録署名人

山口 和也 ㊞

編集後記

今号は「日本消化器がん検診学会関東甲信越支部（地方会）40 周年を迎えて」をテーマに放射線部会、保健衛生部会を支えていただいた方々に執筆していただきました。

私は関東甲信越支部世話人になって約 2 年ですので、今までの歴史を存じていない部分が多々ありましたが、今号の原稿を読ませていただき、その歴史の一部を体感させていただきました。そこでまず感じたのは、市川平三郎先生、笹川道三先生により発足した地方会が、現在のメディカルスタッフによるチーム医療に先駆けてそれぞれの部会が発足したことを知り、いままで鋭い先見の目と寛大で柔軟性のある先生方に見守られてきたことがわかりました。これが幸いし診療放射線技師にも携わる機会を与えていただいたことにより、撮影技術の向上や胃がんの早期発見にどれほどの寄与があったであろうか計り知れません。

しかし現在の「胃がん検診専門技師認定制度」や「基準撮影法」など多くの功績を残すまでには先生を始め先輩技師の方々の大変なご苦勞があったことも感じとれました。

現在の世界情勢は中国経済の減速やアメリカ経済の復活などに始まり日本を含め変革の時期を迎えています。胃がんの集団検診に関しても第 74 回の地方会での発表にもありましたが、現在大きな変革の時期が遠くないことを感じられますので、これからも皆様に最新の情報も提供できますように努力していきたいと思います。

公益財団法人ちば県民保健予防財団

総合健診センター 画像診断部 石井 崇雄

■編集委員会■

編集委員長 山口 和也

編集委員 小田 丈二

木村 友子

岡田 義和

渡邊 綾子

神宮宇 広明

山本 美穂

石井 崇雄

(非売品)

前処置から画像診断支援まで

人々のすこやかな毎日を願い、
より適確で
より安心な診断ができる
信頼ある製品づくりを。

新規取扱い商品

大腸・CT用検査食 エスピー食品と共同開発。
FG-two☆ 味とボリュームにこだわった、簡単調理の検査食。

遠隔画像診断支援サービス



G.I. Lab 株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-1
KIMURA BUILDING 7F
TEL : 03-5283-0981

検診に特化。
胃X線を始め、胸部X線、
マンモグラフィー、CT・
MRIなど、多様な画像を
お取り扱いします。

薬価基準収載

処方せん医薬品 注意-医師等の処方せんにより使用すること

【硫酸バリウム製剤】

■ 上部消化管X線造影剤
バリテスター[®] A240散

バリトゲン[®] SHD

■ 注腸用X線造影剤
エネマスター[®] 注腸散

■ 消化管X線造影剤
バリトゲン[®] HD
バリトゲン[®]

バリトゲン[®] デラックス
ウムブラMD

【炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤】
■ X線診断二重造影用発泡剤
バリエース[®] 発泡顆粒

■ 胃内有泡性粘液除去剤
バリトゲン[®] 消泡内用液 2%
(ジメチコン内用液)

■ 緩下剤
ファースルー錠 2.5mg
(ピコスルファートナトリウム錠)

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等詳細は、添付文書をご参照下さい。

伏見製薬株式会社

● 本社／香川県丸亀市中津町1676 TEL 0877-22-7284 FAX 0877-22-6284
● 資料請求先 営業企画部／東京都中野区弥生町2-41-5 TEL 03-5328-7801 FAX 03-5328-7802
仙台営業所／TEL 022-295-5667 東京営業所／TEL 03-5328-7801 名古屋営業所／TEL 052-732-8555
大阪営業所／TEL 06-6160-2431 中四国営業所／TEL 082-509-2431 福岡営業所／TEL 092-413-4107